

大温室土壤入替えと植栽について

永井親雄・柴田昌男

2001年7月～8月、年次計画に基づき大温室植栽株の土壤入れ替えを行なった。施行場所は、図に示す4植栽区で土壤踏圧、土壤劣化、作物生育環境の改善を目的とした。なお、時期については、他工程区との調整による。

1 概要

A区

下草類は全て掘り上げ、トックリヤシなどの根回り50cmを残した17.7㎡で、30cm掘削・埋め戻しを行なった。

B区

サトイモ科、キツネノマゴ科の下草類を全て掘り上げ、ヘゴなど根回り50cmを残した30.1㎡で、30cm掘削・埋め戻しを行なった。

C区

リュウゼツラン科のコルデイリネなど全ての株を掘り上げた8.0㎡で、30cm掘削・埋め戻しを行なった。

D区

トウダイグサ科のクロトンの株を全て掘り上げた7.2㎡で、30cm掘削・埋め戻しを行なった。

2 培養土

真砂土7・パーク堆肥3の混合土1㎡に対し、牛糞堆肥4.5kg、マグアンプ大粒1.0kgを加えたものをを用いた。

3 植栽

A区

ペンタスなどを地植えしていたが、病害虫により生育が思わしくなかったため、ベゴニアを除く下草類の植栽は行わず、冬期にハイビスカスなどの鉢物を展示した。

B区

暖房パイプから北半分でアグラオネマ、ディフェンバキアを品種変更せずに、切り戻し・挿し木を行った。なお、夏～秋においては、カラディウムの鉢植えを株間に展示した。

南半分は、ルエリアなどを品種変更せず剪定・植え戻

した。併せて、ペンタスなどをプランターに植え、順次花物を更新しながら、植栽した株間などに展示した。

C区

コルデイリネ、ドラセナを品種変更せず、事前に挿し木をしておいた株などを利用し、植栽した。

D区

クロトンを切り戻しながら、老朽株は除去し、植え戻した。

4 植え付け後の生育状況

A区

ヤシ類は順調に生育している。

B区

ヘゴは、株回り掘り上げにより、展開葉に傷みが見られたが順次回復した。下草類は順調に生育している。

C区

順調に生育している。

D区

数株、葉のしおれがみられたが、切り戻しにより順調に生育している。

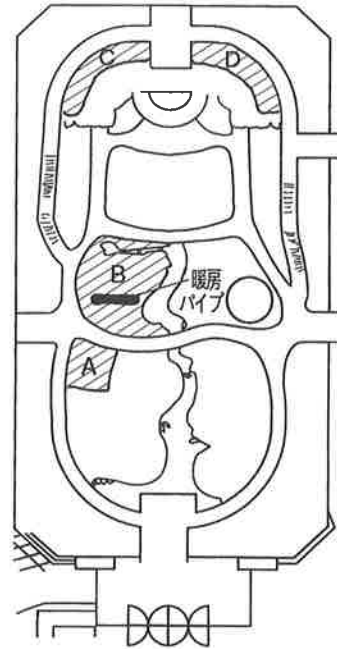


図 大温室土壤入替え施行場所

熱帯スイレンの植栽

原田尋美

熱帯スイレンの大きな植栽変更は、スイレン池の清掃に合わせて年間2回（6月中旬と12月上旬）行なっている。植栽を決定する際には、以下の点に注意した。

1. 上池は品種展示、下池はオオオニバスの展示を主

とする。

2. 夏期（6月～12月）は、できるだけ多くの園芸品種を植栽展示する。

3. 冬期（12月～6月）は、四季咲きの品種を中心に植栽する。

4. できるだけ花色を多く集め、同系色は分散して植える。

5. No.55～No.59の場所（植栽図参照）は日照条件が